

農事組合法人 なかしたファーム（宮城県大崎市）

組織の概要

- 所得増加と経営の安定化を図るため、大崎市鹿島台大迫地区の33名によりH28年に設立
- 17戸の農家で構成
- 転作作物（大豆・小麦）を主体に有機物資材を積極的に活用した土づくりを実現
- 耕起・播種から刈取までの機械化一貫体系の導入により生産コストを低減



生産概要

- 作付面積：水稻33ha、小麦23ha、大豆27ha（R3年）
- **2年3作を基幹とするブロックローテーション**
(飼料用米等 → 麦 → 大豆 → 麦 → 大豆 → 主食用水稻)
- H17の基盤整備事業により、1ha汎用化水田を整備。
- 法人設立を契機に大豆と小麦の作付割合を徐々に拡大。
(H29 84.4ha → R2 107.8ha)



取組のポイント

<需要に応じた生産を徹底>

- 多数の実需者との意見交換を定期的を実施し、作付けする品種を決定。

<水系別のブロックローテーションを導入し、適期作業を徹底>

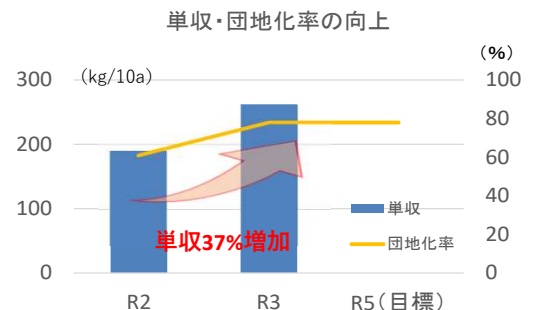
- **水系別に数10ha規模で団地化**することで**作業を効率化し、適期作業を実施**。
- 集落ごとの団地化から**地区全体での団地化へ発展**。
- 弾丸暗渠の施工により湿害を軽減し、各機械作業を効率化。
- 苦土石灰による酸度矯正、狭畦密植栽培に取り組み、収量を高位安定化。
- 主食用米からの転換に伴い、新たに汎用コンバインを導入。
適期に収穫することができ、更なる作付拡大が可能に。



取組成果

<大豆生産の高位安定化を実現>

- 作付面積
19ha (R2) → **27ha (R3)** R5目標 27.6ha
- 団地化率
61% (R2) → **78% (R3)** R5目標 78%
- 単収
190kg/10a (H26~R2平均) → **262kg/10a (R3)**
(大崎市平均単収：169kg/10a (H28~R2：5中3))



<安定した農業所得の確保>

- 生産コスト
64,913円/10a (R2) → **58,468円/10a (R3)**
(全国平均生産コスト：65,032円 H28~R2：5中3)
- 労働時間
16h/10a (R2) → **12h/10a (R3)**
(全国平均労働時間 (10a)：7h/10a H28~R2：5中3)

